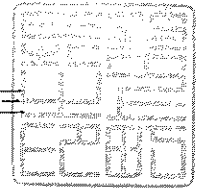




20 築建第 101404 号
平成 20 年 10 月 14 日

国土交通省道路局長 様

築上町長 新川 久三



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企画第 37 号で依頼のあった標記の件について、
別紙のとおり提出します。

地域の発展の根幹を成す道路行政において、バランスの取れた発展を成し遂げるにはバランスの取れた道路行政が必要不可欠であると思います。特に福岡県におけるこの北東部地域は、道路整備の遅れが顕著であり、バランスの取れた地域の発展に大きな障害となっている。現在この地域では、新たな産業の中心をなす自動車生産 150 万台構想を基に、多くの町が将来像を描いており、また、この地域の従来を中心産業であった一次産業(農業、漁業、林業)は諸問題を抱え、衰退の一途であります。一次産業および二次産業(自動車産業)の振興にもその基本となるものとしての道路網整備が大きな要素と考えます。

今日、高速道路などの産業系道路の是非が問われていますが、広域的な街づくり、地域間格差の解消を考える上で、早急に国の責務で「高速道ネットワークづくり」を行い、地域振興の条件整備を行う必要があると考えます。その後の「高速道ネットワーク」の活用については、地域の責務において知恵を出し合い、有効な活用を考えていかなければならない。

併せて、生活系道路の整備においては、全国一律の道路行政は、非常に無駄な部分も多く、地域性を重んじた個性ある道路行政が必要であり、産業系道路と生活系道路の区別を明確にした整備手法の導入が必要と考えます。最近、道路構造令の見直しについても、検討されているようですが、車優先の道路構造令から住民優先の道路構造令への見直しも行い、人に優しく町にもやさしい道路づくりが大切だと思います。最近、福岡県でも導入されている 1.5 車線道路については、どこもかしこも 2 車線道路整備でなく、生活系道路としての整備手法として有効であり、離合所等の活用による整備も含めた法整備を行うことにより、更なる生活系道路の整備が進めやすくなる。

また、地球環境の問題が叫ばれていますが、車も環境悪化の原因のひとつと考えられており、従来の公共交通機関との総合活用も今後といわず早急に対応すべき問題と思います。

今後の道路行政についての意見・課題

様式②

②－１ 地域の現状と抱える課題

福岡県築上町

○ 現状

以前、築上町は他の市町村を結ぶ幹線道路としては、一般国道 10 号のみであり慢性的な渋滞が名物でありましたが、平成 4 年度にかけて整備された椎田道路が一般国道 10 号のバイパスの役目を担うことにより、幾分か渋滞緩和がなされた。

また、現在行橋市側および豊前市側の一般国道 10 号の 4 車線整備が進められている。

併せて、苅田インターまで供用されている東九州自動車道の整備が進められている。

○ 課題

現在整備推進されている東九州自動車道においては、築上町においては現在供用されている椎田道路を東九州自動車道として活用する計画であり、椎田道路の廃止に伴い、一般国道 10 号の渋滞がさらに深刻なものとなり、また、行橋市側及び豊前市側の 4 車線化の工事も町内の渋滞を促進する大きな原因と考えられる。

現在の一般国道 10 号の拡幅改良は難しく、主要地方道椎田勝山線の整備を行い国道昇格も渋滞緩和の 1 つの手法と考えられる。

また、中央では必要性が検討されている地方道路も、地域においては地域活性化の骨格であるインフラ整備として、国の責務において東九州自動車道の早期完成が望まれ、併せて幹線道へのアクセス道路の整備が急がれる。

築上町総合計画において、本町は「豊かな自然、歴史、文化」など先人が培ってきた優れた資源を数多く有しています。これらの豊富な資源を改めて見直し、新たなまちづくりに総合的に活用することで、地域への誇りを呼び覚ますとともに、これまでの2町まちづくりの歩みを引き継ぎ、地域の独自性を尊重しながら、地域の一本化と均衡のとれた住みよいまちづくりが可能となります。豊かな自然との共生と歴史・文化がかおひ合う、活力と賑わいのある「地域の生活安全拠点」の形成をめざします。したがって築上町の将来像を”自然と歴史・文化を育む“一心と体の健康を求めた「豊かな生活の場」づくりとしています。

基本的な道路行政については、産業系道路と生活系道路を区別し、産業系道路としては東九州自動車道の早期開通、一般国道10号のバイパス整備、生活系道路としては一般国道10号の改良、県道、町道の整備と位置づけ、産業系道路整備については、広域的連携、企業誘致等の推進に大きな力となり、生活系道路については、優れた資源等を生かし各地域の独自性を尊重しながら、特徴あるまちづくりが可能となる。

特徴あるまちづくりの考え方として、箱庭的発想ではなく広域的な連携（住み分け）が必要になってくると考え、各地域の特徴ある発展を推進するためにも、広域合併は避けて通れない課題と考える。また、環境問題も大きな問題となっているため、地球に優しい道路行政の推進に向けて、公共交通との連携、共存を考えていく必要がある。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④

福岡県築上町

○ 重点事項 地域活力の向上	○代表事例 東九州自動車道の開通	○期待する効果や評価等 町の将来像が描け、魅力ある町づくり 出来る。 物流の及び企業誘致の推進等により、 働ける環境の整備により、若者の定住化 の促進が図れる。	○ その他 広域合併促進
少子・高齢化社会に対 応した子育て環境、バ リアフリー社会の形 成	一般国道 10 号バイパスの整備	慢性的な交通渋滞の緩和が図れ、町内 の環境改善が図れる。	主要地方道（県道 椎田勝山線）の国 道への格上げ
	一般国道 10 号の改良	大型車の通過減等により、町民に優し く、安全で環境に配慮した道路の整備が 図れる。	最終的には県及び 町村への移管
環境にやさしいまち づくり	公共交通（鉄道、バス）の利用	ライドアンドパークの活用により、環 境保全が図れる。	駐車場の確保